

令和6年度第6回SJAC講演会

（一社）日本航空宇宙工業会（SJAC）は、去る令和6年（2024年）10月9日（水）、株式会社センチネル・スペース・アライアンス 代表取締役社長 佐藤太郎（さとうたろう）氏を講師としてお招きし、「National Security Space - The Background and Future of the Issue -」と題して令和6年度第6回SJAC講演会を開催した。

1. 講演会の背景

SJACでは会員企業間での知見共有を目的とした講演会を開催しており、新たな宇宙安全保障施策における航空宇宙産業のニーズの勉強会としてSJAC講演会を実施した。

本講演会に対して、オンラインで50名以上、SJAC会議室対面式で10名が聴講した。

2. 講演会概要

SJAC佐藤常務から講師紹介があった後に、佐藤氏から“宇宙安全保障”に係る講演が始まった。戦闘機パイロットとしての経歴から統合幕僚監部、航空幕僚監部と3度の米国留学を経て宇宙に取り組むに至った経緯が説明された。

第1部においては、「急速に変化する安全保障環境」と題して、アジア太平洋地域における軍事力の変化に関して、海外での量的な防衛装備品増加について示された。また、国際環境は、テロとの戦いから「国家間の地政学的競争」へと変化してきたこと。アジア太平洋地域での軍事バランスが急速に変化していること等が示された。さらに、A2/AD（Anti-Access/Area Denial）の概念について紹介された。

また、従来型の防衛装備から、サイバースペース、宇宙を対象にした装備品の整備が進められている事例が示された。

第2部においては、「宇宙安全保障」と題して、「宇宙からの安全保障」に焦点を当てた説明が行われた。この中では、国家防衛戦略

「我が国の防衛上必要な7つの機能・能力」とその実現手段である宇宙安全保障構想「安全保障のための宇宙アーキテクチャ」の関係について紹介された。

「7つの機能・能力と宇宙システムの可能性」の中では、「スタンド・オフ防衛能力」、「統合防空ミサイル防衛能力」、「無人アセット防衛能力」、「領域横断作戦能力」、「指揮統制・情報関連機能」の5つについて詳細に解説された。「スタンド・オフ防衛能力」の例として、衛星リモートセンシングによるタスキングから情報処理・分析までを自動化、自律化していく必要性が示された。「統合防空ミサイル防衛能力」においては、宇宙システムを利用することにより広域の「センサ」と「ネットワーク」覆域を提供することにより探知・追尾を含めた総合的な対処能力の抜本的強化が可能となることが示された。「無人アセット防衛能力」としては、高性能な協調型無人戦闘システムと廉価で群運用可能な無人システムの開発・普及が進む中、各種センサから得られたデータの利活用において宇宙システムの重要性が増していること、「領域横断作戦能力」を確保する上では、宇宙システムの任務保障を担保し得る「能動的な」宇宙領域把握が不可欠であることが示された。さらに「指揮統制・情報関連機能」においては、分散型の指揮統制機能やセンサ情報のエッジ処理が進む中、厳しい電磁波環境においてもこれらをつなぎ合わせる抗たん性の高い衛星通信

ネットワークが求められるとまとめられた。

質疑応答においては、新設される航空宇宙自衛隊の役割、宇宙安全保障における日米協力体制、静止光学衛星の有効性、さらにスタンド・オフ防衛能力の向上におけるセンサ機能と情報通信・情報分析機能の重要性等について回答された。

3. おわりに

SJAC会員企業の方々に宇宙安全保障に対する動向に関して理解を深めて頂く良い機会になった。合わせてJA2024開幕を16日から控え、関係者の宇宙に対する知見の拡充にも大いに役立った。



第6回講演会 会場全景



株式会社センチネル・スペース・アライアンス
代表取締役社長 佐藤太郎氏

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 技術部 部長 福島 明〕